

上越市、台風被害で5億3405万円の補正予算を専決処分 台風21号による道路・水路・農地等の被害、板倉区で170件、牧区で84件

村山市長は10月31日、一般会計補正予算の専決処分を行いました。専決処分した予算額は5億3405万円です。

今回の専決処分は台風21号の影響による災害復旧などに必要な調査設計費、工事請負費などの経費を補正するものです。

10月22日から23日にかけて市内のほぼ全域で、激しい風雨による倒木、道路崩落、冠水などの被害が発生しました。先週号でも道路・水路などの被害状況についてお知らせしましたが、その後も被害は増え続けています。

建物被害は10月31日正午現在で、住家94件、非住家172件に



ものぼっています。住家被害の内訳は一部損壊が15件、床上浸水が5件（いずれも新道区）、床上浸水が74件（新道区47、高田区10、北諏訪区9）となっています。公共施設被害は10月30日現在、41件です。

道路・水路・農地などの被害は10月30日現在、658件にのぼっています。このうち道路災害は県道土口谷浜停車場線の西山寺地内で路面が崩落して交通できなくなる（上の写真）など162件、農地の地すべり等が145件、農業用施設が126件、林道の地すべり等106件、農道被害83件などとなっています。地域的には板倉区で170件、次いで牧区が84件、清里区74件、名立区54件、安塚区47件などとなっています。

共産党議員団が現地調査

こうした状況の中、日本共産党議員団では30日、桑取・谷浜区内で被害調査を行いました。

現場へは地元の人たちから案内していただきましたが、思っていた以上にひどかったです。西山寺の県道の崩落したところについては、「迂回路を通れるようにするには1か月ほどかかる」と聞いている。迂回路の農免道路は夜、怖



【ムラサキシキブ】シロ科の落葉低木。漢字で「紫式部」と書きます。花も実も紫色です。写真は実です。園芸種は実がたくさんついたものが多いのですが、これは野にあるもの、実がバラついています。

い。1日も早く迂回路をつくってもらいたい」という声が上がっています。また、大洲地内の農道、水路の地滑りに関しては、「復旧工に働きかけをしました。今冬の除雪計画が明らかにされ

事、来年春の耕作に間に合わせてほしい」との要望が寄せられました。左表は車道除雪計画。

地区	平成29年度車道除雪計画			前年度との比較		
	除雪延長(km)	除雪車台数(台)	1台当たり除雪延長(km)	除雪延長(km)	除雪車台数(台)	1台当たり除雪延長(km)
上越市全体	1,758.76	336	5.23	2.95	1	0.02
合併前上越市	778.07	150	5.19	2.92	0	0.02
安塚区	71.68	12	5.97	△0.19	0	△0.02
浦川原区	73.10	12	6.09	0.00	0	0.00
大島区	33.28	18	1.85	0.00	0	0.00
牧区	72.01	17	4.24	0.00	1	△0.26
柿崎区	126.85	16	7.93	0.00	0	0.00
大潟区	81.09	17	4.77	0.00	0	0.00
頸城区	106.11	19	5.58	0.03	0	0.00
吉川区	85.83	13	6.60	0.10	0	0.01
中郷区	43.53	10	4.35	0.00	0	0.00
板倉区	96.38	17	5.67	△0.06	△2	0.59
清里区	50.38	8	6.30	0.00	0	0.00
三和区	100.47	17	5.91	0.06	0	0.00
名立区	39.98	10	4.00	0.09	0	0.01

はしづめ法一の活動レポート

No.1831 2017.11.5
 発行・編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず
 Tel 025-548-3628
 通じないときは 090-5392-1961
 E-mail hasiznyg@ruby.ocn.ne.jp
 URL <http://www.hose1.jp/>

ブログ「ホーセの見てある記」はこちら


春よ来い

第四七九回

牛とともに

いまから五十数年も前の冬の事です。わが家で飼っていた牛は、腹にガスがたまって「まや」で死にました。わが家では人間が死んだときと同じくらい大きな出来事でした。

原因は水でした。水を入れる桶が壊れていたことに誰も気づかなかったのです。「角で『がらん、がらん』といつも桶を押しこくっていたすけ、穴、あいたんじやないかな」母はそう振り返ったのですが、牛が死んだときは切なかつたですね。

牛が「まや」のなかで倒れているのを見たのは私よりも六つ年下の弟でした。母によると、この弟はいつもじつとしていなくて、「棒で牛をつついて死んでいたのがわかつたみてで、じちやを呼んだがど」。そのとき祖父はまだ寝ていたらしく、ガバツと起きて大急ぎで牛のところへ行ったといひます。

牛が死んだとき、父は酒屋者（さかやもん）の出稼ぎに出ていて留守でした。家に残っていた家族みんなが共通して思ったのは、大事な牛を殺してしまい、父は怒るだろうということでした。当時、わが家は八反ほどの田んぼで稲を作っていました。春になれば、田打ちがはじまります。代かきもありです。その仕事をしてくれた一番の働き手は牛だったので。その牛がいなくなつて困るのは誰よりも父でした。

父は牛を使って仕事をするのが上手でした。春の田打ちなどの田んぼ仕事だけではありません。重たいものを荷車で運ぶときもそうでした。秋になって、稲を運ぶときも牛の力を借りて仕事をしていたので。

いまでも牛を使った父の仕事ぶりを鮮明に憶えています。通称「サカンソ」という地名の田んぼで田打ちをしているときの父の姿です。「サカンソ」の田んぼのうち一

番大きな田んぼは人間の胃のような形をしていました。先を歩く牛の後ろから犁（すき）をあやつり、べろべろと田を起こしていく様子は子どもの目で見てもじつに見事でした。調子よく仕事ができているとき、父はよく流行歌を歌いました。独特の節回しでしたが、よく田んぼの中から父が歌う

三橋美智也の歌が聞こえてきたものです。出稼ぎ先で聞いて、すでに気持ちは落ち着き、静かになっていたのでしょいか。出稼ぎから帰ってきた父は怒りませんでした。ただ、牛が死んだあとの春作業をどうしたのかは私の記憶に残っていません。

牛がいかに頑張り屋で力持ちだったか、最近、改めて確認する機会がありました。安塚区坊金のある農家でお茶をご馳走になつているとき、Gさんから稲運びをする牛が眠ってしまった話を聞きました。秋の忙しい時期、背中に稲をつけて運んでいた、その牛が眠りながら歩いていくことがあつたといひます。

いったいどれくらい稲をつけて運んでいたのか。Gさんによると、生稲で一二束（九六把・きゅうじゅうろくわ）、乾燥稲で一八束（百四四把）くらいつけて運んだはずだといひます。では、人間はどれくらいかというと、頑張つても生稲で四束、乾燥したもので六、七束だったかと思ひます。ですから牛は、人間の三倍から四倍は運んだということでしょうか。すごい力です。

茶の間で語るGさんの姿を見ていて、ふと思ひました。「この人もうちのオヤジと同じだ。がっしりした体つきをしているし、牛に似ているなあ」と。

牛は眠い時には眠ります。悲しい時には涙も流します。半世紀以上も前、多くの農家では牛は大事な労働力であり、家族の一員でした。牛には今でも感謝しています。

「手と手あわせる」という言葉がぴったり

高田文化協会主催の「第7回ぬくもり展」を観てきました。「かなやの里療護園」などの入所者のみなさんが描いた絵に文化協会の会員さんたちが絵や言葉などで応える作品は133

組にもなりました。1枚の絵が訴えていることを汲みとって、それに応えていく。「ぬくもり展」のポスターに書いてある「手と手あわせる」という言葉が

上越地域各消防署における空間放射線量測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	10月25日(水)	10月31日(火)
上越南消防署	0.043	0.043
上越北消防署	0.057	0.050
新井消防署	0.050	0.047
頸北消防署	0.053	0.057
頸南消防署	0.060	0.060
東頸消防署	0.043	0.047
高士分遣所	0.050	0.043
名立分遣所	0.050	0.053

ぴったりです。パッと反応できる作品もあれば、一日考えてもどうしたらいいか悩んだ作品もあるでしょう。それらの作品が会場に並び、観る者の心をほっこりさせてくれます。

印象に残った作品は書ききれないほどいくつもあるのですが、その中で写真に収めた2つの作品を紹介します。

まず渡辺千代子さんのオレンジの絵に応じた大滝和子さんの絵です。千代子さんが「どうぞ食べてください」と

と言っている姿をイメージして描いています。オレンジを2つに割った絵にそばに、オレンジを友だちと食べたときの会話を入れ、最後は「ちよこさん、おいしいオレンジをどうもありがと」と結んでいます。大滝さんは今回、8作品も描いています。すごいです。

いま一つ、飯田みゆきさんの絵に応じた「このゆみこ」さんの作品と篠宮トシ子さんの作品の応じた杉みき子さんの作品。それぞれ4分割ないし2分割された絵を観て、同じように分割した絵や言葉で見事に応えています。「このゆみこ」さんの絵にある朝の会話、とても楽しいものでした。

